

受難節第4主日礼拝説教「主の栄光があらわれて」予稿
説教者=神原かをる神学生

日本基督教団石神井教会 2026年3月15日

【旧約聖書日課】出エジプト記 24章12～18節

¹²主が、「わたしのもとに登りなさい。山に来て、そこにいなさい。わたしは、彼らを教えるために、教えと戒めを記した石の板をあなたに授ける」とモーセに言われると、¹³モーセは従者ヨシュアと共に立ち上がった。モーセは、神の山へ登って行くとき、¹⁴長老たちに言った。「わたしたちがあなたたちのもとに帰って来るまで、ここにどまっていなさい。見よ、アロンとフルとがあなたたちと共にいる。何か訴えのある者は、彼らのところに行きなさい。」

¹⁵モーセが山に登って行くと、雲は山を覆った。¹⁶主の栄光がシナイ山の上にとどまり、雲は六日の間、山を覆っていた。七日目に、主は雲の中からモーセに呼びかけられた。¹⁷主の栄光はイスラエルの人々の目には、山の頂で燃える火のように見えた。¹⁸モーセは雲の中に入って行き、山に登った。モーセは四十日四十夜山にいた。

【使徒書日課】コリントの信徒への手紙二 4章1～6節

¹こういうわけで、わたしたちは、憐れみを受けた者としてこの務めをゆだねられているのですから、落胆しません。²かえって、卑劣な隠れた行いを捨て、悪賢く歩まず、神の言葉を曲げず、真理を明らかにすることにより、神の御前で自分自身をすべての人の良心にゆだねます。³わたしたちの福音に覆いが掛かっているとすれば、それは、滅びの道をたどる人々に対して覆われているのです。⁴この世の神が、信じようとはしないこの人々の心の目をくらまし、神の似姿であるキリストの栄光に関する福音の光が見えないようにしたのです。⁵わたしたちは、自分自身を宣べ伝えるのではなく、主であるイエス・キリストを宣べ伝えています。わたしたち自身は、イエスのためにあなたがたに仕える僕なのです。⁶「闇から光が輝き出よ」と命じられた神は、わたしたちの心の内に輝いて、イエス・キリストの御顔に輝く神の栄光を悟る光を与えてくださいました。

【福音書日課】マルコによる福音書 9章2～10節

²六日の後、イエスは、ただペトロ、ヤコブ、ヨハネだけを連れて、高い山に登られた。イエスの姿が彼らの目の前で変わり、³服は真っ白に輝き、この世のどんなさらし職人の腕も及ばぬほど白くなった。⁴エリヤがモーセと共に現れて、イエスと語り合っていた。⁵ペトロが口をはきんでイエスに言った。「先生、わたしたちがここにいるのは、すばらしいことです。仮小屋を三つ建てましょう。一つはあなたのため、一つはモーセのため、もう一つはエリヤのためです。」⁶ペトロは、どう言えばよいのか、分からなかった。弟子たちは非常に恐れていたのである。⁷すると、雲が現れて彼らを覆い、雲の中から声がした。「これはわたしの愛する子。これに聞け。」⁸弟子たちは急いで辺りを見回したが、もはやだれも見えず、ただイエスだけが彼らと一緒におられた。

9一同が山を下りるとき、イエスは、「人の子が死者の中から復活するまでは、今見たことをだれにも話してはいけない」と弟子たちに命じられた。10彼らはこの言葉を心に留めて、死者の中から復活するとはどういうことかと論じ合った。

こども説教

こどものきょうかいで、みなさんと一緒に礼拝を守り、分級では様々な活動をしてきました。その5年間で、子どもたちは大きく変わっていました。背も伸び、顔つきも変わり、昔の写真を見ると驚くほどです。子どもたちの成長と変化は、とても嬉しいことです。

今日の聖書にも「姿が変わる」出来事が出てきます。イエス様がペトロ、ヤコブ、ヨハネの三人を連れて山に登られたとき、弟子たちの目の前でイエス様の姿が変わりました。これはイエス様が自分で変わられたのではなく、神様によって本当の姿が示された出来事でした。イエス様はもともと神様の御子であり、神の栄光を持っておられるお方ですが、人として来られたため、栄光は普段は隠されていました。そのまことの栄光のお姿が、このとき弟子たちに現れたのです。

神様は、イエス様が十字架の道を歩まれる前に、弟子たちに本当の栄光を示して下さいました。弟子たちはまだ十分に理解はできていませんが、この出来事を心に収めています。イエス様の強さは、敵を倒す強さではありません。人々の罪を背負い、十字架で苦しみながらも人を愛し続ける強さです。そして神様は、イエス様を三日目に復活させ、死にも打ち勝つ力を示されました。

山の上の出来事は、イエス様こそ神様の愛をあらわす本当の救い主であるというしるしでした。聖書のみ言葉を通して神様は語られます。「これはわたしの愛する子。これに聞け。」私たちも、このイエス様のみ言葉を大切に聞いて歩いていきたいと思えます。

説教

私たちは、二千年ほど前、イスラエルの地に神の御子イエス・キリストが人としてお生まれになったことを、聖書によって教えられています。それは単なる偉大な人物の誕生ではなく、神ご自身がこの世界に来てくださった出来事でした。

ナザレで育てられたイエス様は、ヨルダン川で洗礼者ヨハネから洗礼を受けられました。そのとき聖霊が降り、天の声が、この方こそ神の御子であると宣言されたのです。

しかしその直後、イエス様は神の霊によって荒れ野へと導かれ、四十日間、悪魔の誘惑を受けられました。神の御子でありながら、人としての弱さの中で誘惑に向き合われたのです。誘惑を退けられたイエス様は、その後ガリラヤを中心に神の国の福音を宣べ伝えられました。弟子たちを招き、町から村へと歩きながら、人々を癒し、苦しむ者を憐れみ、神の国を語られました。しかしこの歩みは、最

初から十字架へと向かう道でもありました。イエス様は私たちのために十字架にかかり、人として死なれ、そして神によって復活させられるために歩まれたのです。

受難節を歩む私たちは、荒れ野の四十日と十字架への道を思い起こします。イエス様が私たちと同じ人として生きてくださったからこそ、私たちはその歩みを思い、倣うことができます。空腹や疲れを覚え、人々の苦しみに心を痛み、友の死に涙を流されたイエス様は、どんな時でも血と肉を持つ人として歩まれました。

今日のみことばでは、イエス様が十二人の弟子の中からペトロ、ヤコブ、ヨハネの三人だけを連れて高い山に登られています。聖書において山は、神と出会う特別な場所です。出エジプト記 24 章 15 節では、モーセが神の山と呼ばれるシナイ山に登ったときに、雲が山を覆い、主の栄光がその上に留まりました。雲は神の臨在を示すしるしでした。

イエス様が登られた高い山でも、他の弟子や群衆の目から隠された、特別な出来事、主の栄光がイエス様ご自身に現されます。出エジプト記では、シナイ山に登ることができ、神様の出来事に出会ったのは、モーセだけ、閉じられた出来事でした。イエス様の登られた高い山には、3人の弟子たちが共におり、その栄光に立ち会う証人となりました。主の栄光が示されました。ここに神様の出来事が開かれていたのです。

三人の弟子の目の前で、イエス様の姿が変わりました。聖書の他の箇所にも記されている「変わる」という言葉は、神様によって「変えられる」という意味でした。マルコの今日のみことばにあっても、イエス様は、ご自身で変わられたのではなく、神様が、人としてのイエス様を神の栄光を映し出す姿に「変えられた」のです。

聖書は詳しい様子を語りませんが、その衣はこの世のどんな職人にもできないほど白く輝いていました。白とはすべての光を受けて返す色です。徹底的に清められた色、神の栄光を表す色です。神の聖所に入ることを許された大祭司の服の完全な白、清めの仔羊の血で洗われた決定的な白。人として歩まれていたイエス様のうちに隠されていた栄光が、この時、弟子たちの前に現されたのでした。何かが変わったのではなく、覆っていたものが取り払われて、イエス様のまことのお姿があらわれたのです。それは復活の栄光の先取りでもありました。イエス様の栄光は、人に対して覆い隠されておりました。ただ、汚れた霊や悪霊だけが、神の聖者、いと高き神の子としてのお姿を知っていました。ここで初めて、三人の弟子だけが、復活された主の栄光のお姿を、見ることを許されたのです。

さらにそこには、預言者エリヤと律法を授けられたモーセが現れ、イエス様と語り合っていました。聖書にあっては、エリヤとモーセは肉体ごと天に上げられたと信じられ、エリヤは終末の時、主の再臨の際にも重要な役割を担うと考えら

れていました。この時、二人がイエス様と共に立つ姿は、律法と預言がキリストにおいて完成することを示しています。弟子たちは、その出来事の証人とされたのです。

その時、ペトロは言いました。「先生、私たちがここにいるのはすばらしいことです。仮小屋を三つ建てましょう。」私たちには唐突で、頓珍漢にも思える発言ですが、ペトロは、イスラエルの民の幕屋による荒野の旅と、イスラエルに与えられた神の救いを記念して祝う仮庵の祭りを思っていたでしょう。そして神の栄光を見て、主が民と共に住むという、終わりの日の救いが来たと思ったのでしょう。仮小屋を建てて、祝い、この栄光を留めたいという思いがあったのです。しかしそれは、イエス様の十字架への道を止めようとする無意識の抵抗でした。ペトロは、イエス様の十字架から目を逸らしているのです。十字架を通らずして救いはありません。ここに仮小屋はいらないのです。復活を先取りする栄光を見ていながら、十字架の意味をまだ理解できておりません。

その時、雲が現れて彼らを覆い、天から声が聞こえました。「これはわたしの愛する子。これに聞け。」イエス様の洗礼の時には、「あなたはわたしの愛する子」とイエス様に向けて語られました。しかしここでは、弟子たちに向かって「これに聞け」と命じられています。神様の栄光が現された神の御子イエスの言葉に聞きなさい。自分の理解や期待ではなく、今日の前に立ち、十字架へ向かうイエスの言葉に従いなさい。それが、ペトロに与えられた神様のお答えでした。

弟子たちが周りを見ると、モーセもエリヤもすでにいなくなり、ただイエス様だけがおられました。栄光の出来事は一時のものであり、彼らは再び山を降りて日常へ戻っていきます。イエス様の栄光は山の上に留まるものではありません。イエス様は弟子たちと共に山を降り、十字架への道を歩まれます。復活の栄光は十字架を通して現れるのです。

父なる神は言われました。「これに聞け。」それは理屈ではありません。十字架と復活を語られるイエス様の言葉を信じて、受け取ることです。弟子たちは山で見た栄光を胸にしまい、復活の主の栄光は、弟子たちを証人として語り継がれてきたのです。

人として生まれ、人として歩み、人として苦しみを受け、人として死なれ、そして神によって復活させられたお方。イエス様のみことばに聞くことが、弟子にとって、私たちにとっての信仰の出発点です。私は、この四月から、石神井教会を送り出され、少し離れた南の地で礼拝を守ることになります。遠くにあっても石神井教会を覚えて祈ります。それぞれの家や病院、施設など、会堂から離れた場所で礼拝を守っている方々を覚えて祈ります。どこにあっても、私たちは、ただ主のみことばに聞きましょう。そして再び主の栄光が現される時、その証人とされることを願います。